

みかん園経営の収益性について

和田 武利
(福岡県農業試験場)

WADA, T.

Effect of Some Factors in the Management of Orang Orchard

はじめに

最近の果樹とくにみかんの増植熱は全国的に極めて高いものがある。福岡県もその例にもれず、昭和31年を境に非常な勢で新植が進んでいる(第1図)。29年を基準にしてみると38年には面積総数で5倍以上に、結果園は約3倍に、未結果園では20倍近くに増加している。

このように急激にみかん園が増加した原因は、近年においては農業基本法の選択的拡大の推進があざかつ

て力があつたと思われるが、やはり最大の原因は、みかん園経営が他の経営方式に比較して収益性が高いためであろう。

そこでみかん園の経営がどれくらい収益をあげているか、またその収益の差が何に原因するかを検討するため、山門郡山川村のみかん地帯である中原、西瀨部落の40戸の農家についての調査結果を素材として分析した。

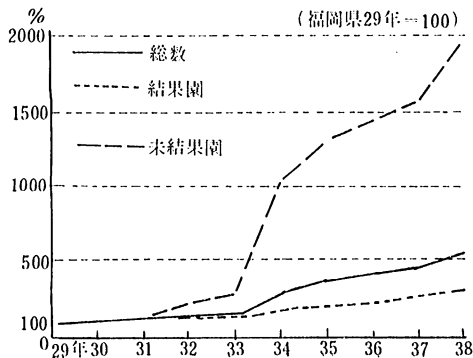
分析結果

従来規模を表すには耕地面積を主に利用していたが、ここでは農業資本額で規模を表わし、階層区分を行なつた。農業資本額は小は150万円から大は1400万円まであり、これを250万円毎に5階層に区分した。

農業所得を左右する要因は農業従事者数、耕地面積、農業資本額があるが、まず農業従事者数についてみると第1表のとおり、農業資本額の多い階層ほど多くなっている。最近農村からの出稼者が多くなり、農業従事者の問題がおこっているが、みかん地帯では若い人達が熱心に農業に従事している。

次に耕地面積をみると、これも資本額が多くなるに従つて多くなっている、その内容を見ると耕地面積が

第1図 みかん園面積の推移



第 1 表 農 従 者 ・ 耕 地 の 状 況

階層区分	項目	農従者数	耕 地 面 積				みかん園 割合	盛果園 換算面積	農 従 者 1 人 当 盛果園面積	
			水田、畑 その他	み か ん 園	未 成 園	小 計				
I 250万円以下(3戸)	人	1.9	28	30	17	47	75	63.1	23	12.1
II 250~500 (17戸)		2.5	50	68	42	110	160	68.8	57	22.8
III 500~750 (14戸)		3.0	56	89	80	169	225	75.1	81	27.0
IV 750~1,000 (5戸)		3.2	35	82	76	201	236	85.0	89	27.8
V 1,000万円以上(1戸)		3.6	47	388	30	418	465	89.9	23.4	65.0

増加するに従つて水田、畑等の割合は減少している、果樹園割合は63%~90%ある。1965年のセンサス結果によると、調査部落におけるみかん作農家のみかん園平均割合は73%であり、調査農家は部落平均よりわずかに多い程度である。

農業資本額を種類別に盛果園10a 当たりについてみると第2表のとおり、I階層が最も高く、次に4、3、5、2の順である。

次に部門所得についてみると第3表のとおり、農業資本額が多くなるに従つて高くなっている。ただしV階層は低くなっている、これは規模拡大を不適合に進めすぎて管理作業等が粗放化された結果、10a 当たり収量が低下したためであろう。

盛果園換算10a 当たりについてみると、最も高いのはIV階層で、次にI、III、II、Vの順になる、所得は10a 当たり収量に大きく左右されており、ほぼ収量の高い順に所得は高くなっている。

収量差が生ずる原因をみると一つは地価に表われて

いる。第2表をみると地価の高い順に収量が高くなつており、生産力の高い適地は地価が高いことを示している、また経営費をみると第3表のとおり、盛果園換算10a 当たり収量の高いIV階層は97千円を投じ2番目に多く、収量の2番目に高いI階層は面積の狭い関係もあるが、経営費は最も多く投入している、次に盛果園換算10a 当たりの投下労働量(第4表)をみると、経営面積が増加するに従つて単位当たり投下労働量は当然減少するが、I階層は極めて集約的な労働投下を行ない10a 当たり収量の増加につとめている。

要 約

以上見てきたように、いろいろな要素が所得を左右しているが、盛果園換算10a たり8万から10万円の高い所得をあげている。このように高い所得をあげてきた原因は、価格が比較的有利に形成されていたためである、その価格の変化を福岡県内の市場についてみると、34年に1kg当たり42円であつたものが、51円、63円、72円、75円と38年までは年々急上昇している。し

第 2 表 農 業 資 本 額 (盛果園換算10a 当り・円)

階層区分	項目	土 地	建物施設	大 農 具	小 農 具	大 植 物	流動資本	計
I 250万円以下		151,826	21,423	36,234	1,039	178,560	20,914	409,994
II 250~500		130,752	24,184	15,732	1,153	155,827	18,763	346,410
III 500~750		135,967	21,779	13,846	1,099	168,383	17,808	358,882
IV 750~1,000		186,551	21,554	13,477	1,399	153,087	17,601	393,679
V 1,000万円以上		87,786	23,853	12,073	1,446	206,315	16,483	347,955

第 3 表 農 業 所 得

階層区分	項目	全 園				盛 果 園 10a 当り				家族勞	1人当り	1日当り
		収 量	粗収益	經營費	所 得	収 量	粗収益	經營費	所 得	働報酬	働報酬	働報酬
I 250万円以下		kg	千円	千円	千円	kg	千円	千円	千円	千円	千円	円
II 250~500		6,463	475	248	227	2,810	206	108	98	130	72	661
III 500~750		13,654	1,028	534	494	2,381	179	93	86	304	128	924
IV 750~1,000		20,215	1,436	752	684	2,505	178	93	85	381	128	881
V 1,000万円以上		27,296	1,802	861	941	3,060	202	97	105	546	166	1,092
		35,616	2,369	1,782	587	1,522	101	76	25	△140	39	△226

第 4 表 盛果園換算10a 当り投下労働(単位:人)

階層	項目	施 肥	剪 定	防 除	摘 果	収 穫	出 荷	貯 蔵	荷造り	土壌管理	計	うち臨時 雇人数
I 250万円以下		7	2	17	2	15	6		0.4	32	81	5
II 250~500		9	3	10	2	18	4	1	1	19	69	10
III 500~750		10	3	10	2	14	3	1		15	58	10
IV 750~1,000		4	2	6	0.4	19	4	2	2	16	55	8
V 1,000万円以上		0.8	0.4	1	4	21	11	1		1	41	16

かし39年には64門と低下している。今後は当初に述べたとおり、急速に新植の進んだ33年頃の園が結果樹令に達し、今後ますます結果園が増加することは確実である、従つて今後も今までのように有利な価格が形成されるかどうか疑問である。

また新植が進められている園が旧園より適地であれば問題は少ないが、山川村における適地は既成園になつているという見方をすれば、新植を進めている農家はよほどの努力をしなければ、現在生産されているよ

うな良質のみかんを生産することは困難であり、農家間の競争に負けることになるろう。

現在の山川みかんは品質の良い事で東京・大阪などの大市場で有利な地位を占めている。しかし現在新植が進められている園が適地でなく、生産されるみかんの品質が既成園のものより劣るとすれば、選別、出荷方法・出荷先など充分考慮しなければ、現在のような有利性を確保することはむつかしくなり、ひいては地域間競争に負けることになるだろう。